

令和 7 年 6 月 9 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H03999

研究課題名(和文) 親子の相互作用を重視した観察法に基づく虐待予防・育児支援システムの開発研究

研究課題名(英文) Trained observation of Parent-child interaction within childcare support systems to prevent abuse and exploitation

研究代表者

園部 真美 (Sonobe, Mami)

東京都立大学・大学院人間健康科学研究科・准教授

研究者番号：70347821

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：親子の関係性のリスクを評価するInfant CARE-Index (ICI)を用いて、親子が自由に遊ぶ場面の録画データを有資格者が分析した。既存のアセスメントツールであるNCATS (Nursing Child Assessment Teaching Scale)および小児期逆境体験 (ACEs)、抑うつ (CES-D)、育児ストレス (PSI)等の質問紙結果との関連を分析した。既存のNCATSや尺度ではみつけることのできなかつた関係性にリスクのある親子の弁別可能性が示唆された。一部の対象者にはAAI (Adult Attachment Interview)を実施し、AAIデータによる談話分析を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

Infant Child-Adult Relationship Experimental Index (Infant CARE-Index: ICI)は親子の関係性をアセスメントするツールである。子どもとその親に接する機会の多い看護職等の専門家がICI資格およびそのコーディング方法を取得することにより、一見発見しにくい虐待・ネグレクトを、育てにくさを抱える親の中から早期に発見することでその社会的波及効果が期待できる。ICIによるアセスメントスキルを用いて親子の支援を行うことで虐待予防、介入支援を行うことが可能となる。

研究成果の概要(英文)：Infant CARE-Index (ICI), a tool for assessing risks in parent-child relationships, was used to code video recordings data of parent-child play sessions by qualified professionals. The results were analysed in relation to existing assessment tools such as the Nursing Child Assessment Teaching Scale (NCATS), Adverse Childhood Experiences (ACEs), depression (CES-D), and parenting stress (PSI) questionnaires. The results suggested the possibility of distinguishing parent-child dyads with relationship risks that could not be identified using existing tools such as NCATS or other scales. For some participants, Adult Attachment Interview (AAI) was conducted, and discourse analysis was performed using AAI data.

研究分野：親子相互作用

キーワード：Infant CARE-Index NCATS 親子相互作用 虐待予防 育児支援 AAI DMM 乳幼児精神保健

1. 研究開始当初の背景

子どもの虐待・ネグレクトは増加しており、その早期発見と支援システムの普及が急務である。研究代表者らは親子の関係性に着目し、乳幼児精神保健を基盤とした妊娠期から産後まで継続して親子を支援する縦断的研究を行いその有効性を証明してきた。こうした研究を通じて、近年新たに開発された子どもの虐待・ネグレクトを生後間もない時期から発見するためのスクリーニングツールである Infant Child-Adult Relationship Experimental Index (Infant CARE-Index, ICI)¹⁾が研究協力者によって初めて日本に紹介された²⁾。予備的な研究³⁾⁴⁾では日本人データを ICI でコーディングを実施したが、評価結果に文化差の影響が疑われる偏りが認められたため、更にデータを追加し検討を加える必要が明らかにされた。関係性にリスクをもつ親子の早期発見と支援のために、日本人データによる日本版 ICI の作成と実践、教育、研究における導入と普及の推進が期待できる。

ICI の尺度は Crittenden が提唱している Dynamic-Maturational Model: DMM 理論⁵⁾に基づいて開発され、これまでにその有効性が証明されている⁶⁾。したがって、日常的な虐待・ネグレクト発見のみでなく、発見とその後の介入効果の測定までを科学的根拠に基づいて実施することに利点がある。この尺度では、0 か月 15 か月までの乳幼児と養育者の関係性の質を 3 分間の遊び場面を親側の下位尺度 3 つ (sensitive、controlling、unresponsive) と、乳幼児側下位尺度 4 つ (cooperative、difficult、compulsive、passive) にもとづいて自然観察と評価を行う。その結果、豊かな感受性を持った関係性から感受性に著しく欠けたリスクの高い関係性まで大きく 4 段階に分類するものである。親子の関係性の問題を直接観察することによって発見しようとする画期的なツールではあるが、普段から親子に接する機会の多い看護職がこのアセスメントスキルを用いて支援を行う機会は極めて少ないのが現状である。

日常的な親子の短時間の場面における観察からマルトリートメントを発見するツールはこれまでになく、ICI の有効性が検証されれば、子どもとその親に接する機会の多い看護職等の専門家が ICI 資格を取得することにより、一見発見しにくい虐待・ネグレクトを、育てにくさを抱える親の中から早期に発見でき、虐待防止に対する社会的波及効果が期待できるという意義がある。

2. 研究の目的

日本人データを収集・蓄積し、ICI コーディング資格を取得してから分析し、日本人を対象とした ICI のデータと、既存のアセスメントツール NCATS (Nursing Child Assessment Teaching Scale) および尺度を比較し、日本におけるスクリーニング・標準化の可能性を検討するのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

- (1) ICI 講習会の開催：Infant CARE-Index 上級者講習会。対象者：乳児と家族に対する支援を専門とする看護・心理職等であり ICI の受講経験を持ち臨床レベルの資格取得者。場所：Andrea Landini (イタリア) 講師による現地開催が中止となり Zoom によるオンライン開催となった。日時：2020 年 8 月 29・30・31、9 月 24・26・27 日。
- (2) ICI 講習会の開催：Infant CARE-Index 初心者講習会。対象者：乳児と家族に対する支援を専門とする看護・心理職であり初めて ICI 講習会を受講する者。場所：Bronwen Elliott (オーストラリア) によるオンライン開催。日時：2020 年 10 月 24・25 日、10 月 31・11 月 1・2・3・21・22・23 日。
- (3) 研究対象者：東京都内、札幌近郊における保育所、子育てサロン等の施設において研究協力の同意が得られた母親とその子どもを対象とした。対象者の子どもの月年齢を、0~3 か月、3~6 か月、6~9 か月、9~12 か月、12~15 か月に分け、可能な限りカテゴリ枠の人数を揃えた。
- (4) データ収集方法：保育所、子育てサロン、対象者の自宅において ICI および NCATS のビデオ撮影、質問紙調査を実施した。
- (5) 質問紙調査の内容
 - ACEs (小児期逆境体験)
 - CES-D (抑うつ状態)
 - PSI-SF (育児ストレスインデックスショートフォーム)
 - 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表
 - 属性に関するデータ
- (6) ICI および NCATS 評価の方法
 - ICI データは Level 2 以上のライセンス取得者 2 名がコーディングし一致率を確認した後、検討が必要な事例についてはディスカッションを行った。
 - NCATS データは研究レベルでのライセンス取得者がコーディングを行い、観察者内一致率が 90%以上であることを確認した。

- (7) 分析方法: ICI および NCATS データの総得点と下位尺度得点との相関係数, ICI と NCATS それぞれの質問紙調査結果との相関係数, 月例の影響を除いた編相関係数をもとめて比較した。Bronwen Elliott によるトレーニング勉強会を実施し, 代表的な ICI 日本人データに関する分析方法を教授してもらい, 評定方法を検討した。日時: 2024 年 1 月 6・7・8 日。場所: 札幌
- (8) 一部の対象者には AAI (Adult Attachment Interview)⁷⁾ を実施し, ICI, NCATS における遊び場面のデータと質問紙調査の結果の背景や根拠, 考察のために AAI 分析を用いた。

4. 研究成果

- (1) 62 組の母子を研究対象者とした。ICI における DS 得点 (Dyadic Synchrony Scale) は, Sensitive (11 - 14) が 4 組, Adequate (7 - 10) が 26 組, Inept (4.5 - 6) が 15 組, At risk (0 - 4) が 17 組であった。DS 得点が 7 点以上の母子は関係性が良好であるとされ, 母子のパターンは「Sensitive」「Cooperative」となる。本研究では 62 組中 30 組が該当した。次に, 未解決の問題がみられるため支援を望んだ場合介入が必要とされる DS 得点が 5 - 6 点 (4.5 を含む) の母子は 15 組, 特に母子の関係性のリスクが高いとされる DS 得点が 4 点以下の母子「At risk」は 17 組であった。At risk 群の 17 組の下位尺度をみると, 母親が「Unresponsive」, 児は「Compulsive」「Difficult」「Passive」単独か複数を併せ持つ混合パターンが 11 組, 母親が「Controlling」, 児は「Compulsive」得点が高く「Difficult」を併せ持つ混合パターンが 6 組であった。
- (2) 既存の NCATS 得点および質問紙調査による尺度との関連をみると, 月齢が高いと ICI の DS 得点および NCATS 得点は高かった。ICI の DS 得点と NCATS 得点には若干の正の関係 ($r = .20$) があつたが有意ではなかつた。発達得点が高いと ICI の DS 得点は高かった。ACE と ICI には相関がなかつた ($r = .03$)。NCATS と ICI の下位尺度間の相関をみると, Cue に対する感受性が低いと Difficult 得点が高かった。NCATS の養育者合計が高いほど Unresponsive 得点が低かった。不快な状態に対する反応が高いほど Unresponsive 得点が低かった。
- (3) 62 組の対象者のうち 17 名の母親にライセンス取得者がリモートあるいは対面で AAI (Adult Attachment Interview) を実施し, DMM-AAI (Dynamic-Maturational Model-Adult Attachment Interview) による談話分析を実施した。ICI および NCATS による親子の遊び場面, 質問紙調査のみでは評価することのできない母親の背景を分析することにより ICI 分析の裏付けとなる可能性が示唆された。

< 引用文献 >

- 1) Crittenden, PM.: CARE-Index Infant Coding Manual, ©Crittenden, PM, 2016
- 2) 廣瀬たい子訳: コーディングマニュアル, Patricia M. Crittenden: CARE - INDEX Infants Coding Manual, 2017
- 3) 竹尾奈保子: 日本における母子相互作用アセスメント尺度の看護実践への有用性の検討 JNCAST と CARE-Index の比較から, お茶の水看護学雑誌, 10(1-2), 1-15, 2016
- 4) Keiko Komoto, Taiko Hirose, Takahide Omori, Naoko Takeo, et al: Effect of Early Intervention to Promote Mother - Infant Interaction and Maternal Sensitivity in Japan: A Parenting Support Program based on Infant Mental Health, J Med Dent Sci, 62, 77-89, 2015
- 5) Crittenden, PM.: Raising parents: Attachment, representation, and treatment, 2nd, Routledge. 2016
- 6) IASA (International Association for the Study of Attachment): DMM Publications 2018, IASA p20-26, 2018
- 7) パトリシア・M・クリテンデン アンドレア・ランディーニ著: Assessing Adult Attachment Dynamic-Maturational Approach to Discourse Analysis. 三上謙一 (監訳) 成人アタッチメントのアセスメント 動的 - 成熟モデルによる談話分析, 岩崎学術出版社, 2018

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 園部真美
2. 発表標題 乳幼児と親子の関係性をアセスメントする評価指標 - Infant CARE-Indexの紹介
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第26回各術集会いしかわ金沢大会 大会企画シンポジウム
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	斉藤 早香枝 (Saito Sakae) (50301916)	札幌保健医療大学・保健医療学部・教授 (30126)	
研究分担者	木村 千里 (Kimura Chisato) (60520765)	東京都立大学・人間健康科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	澤田 優美 (Sawada Yumi) (00585747)	札幌保健医療大学・保健医療学部・准教授 (30126)	
研究分担者	臼井 雅美 (Usui Masami) (50349776)	東邦大学・健康科学部・教授 (32661)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	草薙 美穂 (Kusanagi Miho) (90326554)	日本医療大学・保健医療学部・教授 (30127)	
研究分担者	寺本 妙子 (Teramoto Taeko) (20422488)	開智国際大学・教育学部・教授 (32524)	
研究分担者	三國 久美 (Mikuni Kumi) (50265097)	北海道医療大学・看護福祉学部・教授 (30110)	
研究分担者	大森 貴秀 (Omori Takahide) (60276392)	慶應義塾大学・文学部（三田）・助教 (32612)	
研究分担者	三上 謙一 (Mikami Kenichi) (90410399)	北海道教育大学・保健管理センター・准教授 (10102)	
研究分担者	鈴木 香代子 (Suzuki Kayoko) (50372876)	東京有明医療大学・看護学部・特別研究員 (32821)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------